

## 北大病院で全身麻酔を受けられた患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 北海道大学病院での最近6カ年(2005-2010年)の高度挿管困難症の現況

[研究機関] 北海道大学病院 麻酔科

[研究責任者] 瀧田 恒一 (麻酔科・講師)

### [研究の目的]

全身麻酔がかかると、呼吸が弱くなります。このため、麻酔中は機械(人工呼吸器)で呼吸を補助します。この機械と患者さんは、口あるいは鼻から気管内へ挿入された管によってつながります。この気管挿管操作(空気の通り道として、口、鼻から気管内へ管を入れる)は、麻酔管理において最も基本的な手技の一つであり、挿管に関わるトラブルは、死亡あるいは低酸素脳症など重大な転帰につながることもあります。近年、挿管困難症(通常の道具では、気管の入り口が見えないため、気管内に管を入れることが難しい)に対処するため、ラリンジアルマスクを利用した挿管器具、ライト付スタイレット、ビデオ型喉頭鏡等、従来のマッキントッシュ型喉頭鏡、気管支ファイバースコープ以外の新たに開発された道具も使用可能となっています。しかしながら、現時点でも、依然、気管挿管に難渋する患者さんは存在します。今回、私たちは、気管挿管困難症の現状を把握するために、北海道大学病院での最近6カ年(2005-2010)に挿管操作に20分以上を要した高度挿管困難であった患者さんのデータを分析します。

### [研究の方法]

#### ●対象となる患者さん

2005年1月から2010年12月の期間に北海道大学病院医科麻酔科で気管挿管された患者さん(約21,982例)のうち、挿管操作に20分以上を要した、あるいは非外科的気管挿管を断念した患者さん

#### ●利用するカルテ情報

①年齢 ②麻酔導入から気管挿管までの時間 ③最終的挿管手段 ④挿管状況 ⑤気管挿管に伴う合併症の有無 ⑥術前挿管困難関連因子(下顎形成症候群、肥満、睡眠時無呼吸、上気道病変(顔面を含む)、頸椎疾患の有無) ⑦手術名

**[個人情報の取り扱い]**

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

**[問い合わせ先]**

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院 麻酔科 担当医師 瀧田 恒一

電話 011-706-7861 FAX 011-706-7861